

令和7年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターさやのもり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価
評価日時： 令和 8年 2月 25日 9:30 ~ 11:30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 2名 地域委員 2名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

感謝の気持ち・自己肯定感・貢献感の持てる子を育む ~いいところ 見つけた! できること 見つけた!~

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

1. 自分大好き・友だち大好き・ありがとうがいっぱい ~いいところ 見つけた! できること 見つけた!~
2. エコ活動を通して資源の大切さを知ろう

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインや重点目標の内容について職員で周知する機会を設けてきた。また、振り返りシートの中で、自身の関わりや教育・保育内容と結びつけながら考えることができた。 ・指導計画を立てる際にも、重点目標に意識を向けながら進めることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・園の参観の様子や委員会での報告を聞き職員がグランドデザインを理解し、意識して教育・保育を進めていることが良く分かった。 ・園全体で取り組んでいるエコ活動もとても良いと思う。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発達の段階に丁寧に寄り添いながら、活動を計画していくことができた。 ・野菜作りでは、気候の変化に対応しながら計画した。収穫の喜びを味わう経験やうまく育たない経験もし、子どもたちの興味関心が広がった。 ・キッチンの職員とのやり取りを楽しみながらのクッキング活動が充実し、食育に繋げることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体に、季節を感じられる雰囲気があり、子どもたちの豊かな感性が育まれる環境が整っていると感じている。 ・散歩では、職員が自然物や季節の変化に気づくような声掛けをしている姿が印象的だった。教育・保育活動のねらいに基づいた計画がされていることが分かった。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたらしさが認められる 2. 安心してすごせる生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模園で園児や職員数が多いことが様々な人との関わりに繋がり、自分を知る機会となっている。 ・異年齢での活動やさやの家との交流の機会を多く設けることができた。 ・避難訓練の内容の充実を図ることができ、子どもたちが訓練の内容から自分の日常生活をイメージして会話する姿も見られ、日々の積み重ねの大切さを感じた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の様子を参観したが、個々に合わせた食事の提供や子どもの気持ちに寄り添った関わり方がされている。 ・日々の教育・保育の積み重ねで、自己肯定感が育っている。実践にすぐに生かせる園内研修を行い、子どもの気持ちをより深く理解することに繋がっている。 ・幼児部、保育部と分かれることなく、同じ学年として一緒に活動する良さが、子どもたちの活き活きとした表情から読み取れた。
<p>Ⅳ. 家族にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に話ができる 2. 教育・保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 教育・保育を通して地域に親しむ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・降園時や参観会・懇談会・保育参加等で、園での姿を伝え相談にも応えていくことができた。 ・昨年度の課題から、手紙を配信した際に、その都度お知らせをし、配信と同時に紙ベースでも園内に掲示するなどして、保護者が確認できる場所を設けていった。 ・就学を意識した取り組みは、就学間近の年長以外の学年でも発信や情報共有ができるように、職員内での周知を進めていきたい。 ・地域とのつながりは、該当の学年だけでなく他学年にも取り組みの様子が伝わり、園全体の活動として広がっていくようにしていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面を配布してのお知らせではなく配信でのお知らせが主流となる中で、それぞれの良さを活かしながら、家庭のニーズへ対応していくと良い。 ・混成クラス施行に向けての移行期間であるため、今後も園として大切にしていきたい教育・保育について、理解していただけるよう丁寧に伝え続けていくと良い。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容及びよくわかる 3. 困った時に頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や支援の利用者、一時保育の利用者と名札の色を変え、視覚的に分かりやすいようにした。そのため、声をかけやすくなり関わりが増えた。 ・こちらから挨拶や声掛けをし、いつでも話しかけてもらえるような雰囲気作りに努めることができた。 ・支援センターの利用者も増え、様々な内容で講座を開くことができた。 ・里帰りや一時帰園の子を受け入れ、家庭内で困っている方の窓口になることができていた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・園としての地域との関わりの様子は十分理解できるが、この項目の評価基準というものが視覚的に見えにくい部分がある。地域の中に根付き、共に育ちあっていけるよう、今後も関わりを深めていけると良い。 ・地域の中でのバランスもあるので、園としてできることを行うだけでも十分だとは思いますが、もう少し周り発信できると良い。
<p>Ⅵ. 保育者にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性がいかされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・品質目標につながる園内研修で自分の得意分野を活かした内容を取り入れ、他職員にも共有し教育・保育で活かすことができた。 ・相手に伝わるような気持ちの良い挨拶を保護者や子ども、職員に自分からしていくように心がけている。 ・混成クラスに向けて幼保の隔たりはなくなっているが他学年との連携が難しいことがあり、来年度への課題となった。 ・行事や活動が多く気持ちに余裕を持ってない時があった。仕事内容や行事の時期、内容についての検討を今後も進めていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・園の職員が自分の得意分野の講師になるという園内研修は、お互いの長所を理解しあうことにも繋がる良い取り組みだと思ふ。また、質問や疑問をすぐに解決できる点においても、職員のスムーズな保育知識習得となる。 ・業務改善を進めながら、職員が無理なく仕事へ取り組んでいけるよう工夫をしていくと良い。